

## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月12日

上場会社名 株式会社ウェルディッシュ 上場取引所 東  
コード番号 2901 URL <https://wel-dish.co.jp>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 小松 周平  
問合せ先責任者（役職名） 常務取締役（氏名） 小西 一幸 TEL 03-6277-2308  
半期報告書提出予定日 2024年11月13日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	1,013	1.0	32	—	17	—	325	—
2024年3月期中間期	1,003	△32.8	△57	—	△63	—	△62	—

（注）包括利益 2025年3月期中間期 312百万円（—%） 2024年3月期中間期 △68百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	19.88	19.10
2024年3月期中間期	△4.36	—

（注）2024年3月期中間期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	804	434	53.5
2024年3月期	880	△73	△8.7

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 430百万円 2024年3月期 △76百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	2,080	3.2	80	—	—	—	300	—

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有  
新規 社(社名) 、除外 5社(社名) 株式会社新日本機能食品、株式会社キュアット、  
株式会社ビューティーランド、笑美寿製薬株式会社、株式会社食品健康医薬研究所

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	17,557,400株	2024年3月期	15,295,700株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	1,781株	2024年3月期	1,781株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	17,555,619株	2024年3月期中間期	14,293,920株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 中間連結貸借対照表	3
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	8
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における当社グループの連結業績は、従来低迷していた当社主事業である食品関連事業の回復と化粧品事業子会社の寄与などが、これまで当社グループの連結売上高の9割を占めていたインターネット通信販売事業を行う子会社の譲渡によって生じた減収をカバーしたことによって、当中間連結会計期間の売上高は1,013,878千円(前中間連結会計期間比1.0%増)となりました。

損益面においては、食品事業の黒字化及び化粧品事業子会社等の寄与により、事業採算が大幅に改善したことから営業利益32,640千円(前中間連結会計期間は営業損失57,649千円)、経常利益17,315千円(前中間連結会計期間は経常損失63,947千円)となり、最終損益は、子会社株式売却益、債務免除益等の特別利益の計上があったことから、親会社株主に帰属する中間純利益325,148千円(前中間連結会計期間は親会社株主に帰属する四半期純損失62,356千円)となりました。

セグメントの業績は、次の通りであります。

#### ① 食品事業

食品事業においては、珍味のビーフジャーキーについて中国向け販売の拡大等により、大幅な増収となり、売上高212,719千円(前中間連結会計期間比37.9%増)となりました。

損益面では、為替市場のボラティリティとマクロ環境を注視したことによって円高のタイミングで仕入コストを抑えられた反動や、ビーフジャーキーを生産する中国生産子会社へ実施した財務基盤向上施策に伴う採算改善により、営業利益31,778千円(前中間連結会計期間は営業損失3,354千円)と黒字に転換いたしました。

#### ② インターネット通信販売事業

インターネット通信販売事業においては、同事業を行う子会社が2024年7月31日を以って連結決算の対象外となったことから売上高568,114千円(前中間連結会計期間比32.0%減)に留まりました。営業損益は、営業利益4,492千円(前中間連結会計期間比8.5%増)となりました。

#### ③ 化粧品事業

化粧品事業においては、前連結会計期間末に子会社化した株式会社メディアートがPMI(買収後の統合等)完了及び当中間連結会計期間から実施している効果的なマーケティング施策が業績に寄与し、売上高139,015千円(前中間連結会計期間比15,501.8%増)と、自社ブランド化粧品が苦戦をしていた前中間連結会計期間に比べ大幅な増収を計上する状態が当中間連結会計期間は続いております。

損益面においても株式会社メディアートの業績が寄与し、営業利益35,227千円(前中間連結会計期間は営業損失11,658千円)と多額の黒字を計上にすることとなりました。

#### ④ その他

医療福祉関連事業(福祉用具事業から改称)はKPI(重要業績評価指標)の見直しと販売戦略の改善に伴い、取引先が137社(前中間連結会計期間比6,500%増)に増えた事で大幅な売上伸長となりました。また、これに加えて当事業に関連した食品サービス事業が大きく伸長したこと及び医療福祉関連企業との提携による収益機会増から、売上高94,028千円(前中間連結会計期間比624.1%増)と大幅な増収となりました。

損益面においては、営業黒字とはなったものの、医療福祉関連事業では組織編成強化とマーケティング活動が続いていることから、営業利益764千円(前中間連結会計期間は営業損失6,398千円)に留まりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末における財政状態は、主に今年度実施した第三者割当増資や借入金の減額、親会社株主に帰属する中間純利益の計上、財務体質が毀損していた子会社の譲渡並びに取引環境の好調に伴うフリーキャッシュフロー増によって大幅に改善し、総資産804,570千円(前連結会計年度末は880,473千円)、負債合計370,211千円(前連結会計年度末は953,679千円)、純資産434,358千円(前連結会計年度末は△73,206千円)、自己資本比率は53.5%(前連結会計年度末は△8.7%)と前連結会計年度末の債務超過から、資産超過に大きく改善しております。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年10月31日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました2025年3月期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	224,124	286,366
受取手形及び売掛金	142,128	162,637
商品及び製品	171,906	56,614
原材料及び貯蔵品	25,186	14,759
前渡金	12,797	15,638
その他	29,463	27,353
貸倒引当金	△5,324	△4,972
流動資産合計	600,283	558,397
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	33,244	36,433
機械装置及び運搬具 (純額)	4,248	1,661
土地	7,828	7,828
その他 (純額)	96	1,410
有形固定資産合計	45,417	47,334
無形固定資産		
のれん	145,864	131,278
その他	0	0
無形固定資産合計	145,864	131,278
投資その他の資産		
投資有価証券	7,192	116
その他	81,715	67,443
投資その他の資産合計	88,907	67,559
固定資産合計	280,189	246,172
資産合計	880,473	804,570

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	140,578	109,630
未払金	32,172	13,390
短期借入金	169,100	70,000
1年内返済予定の長期借入金	84,222	4,264
リース債務	2,872	2,168
前受金	61,767	—
未払法人税等	21,618	12,817
賞与引当金	99	—
その他	22,920	67,689
流動負債合計	535,352	279,961
固定負債		
長期借入金	411,099	84,114
リース債務	7,228	6,135
固定負債合計	418,327	90,250
負債合計	953,679	370,211
純資産の部		
株主資本		
資本金	989,102	224,992
資本剰余金	892,395	131,209
利益剰余金	△1,950,511	94,595
自己株式	△783	△783
株主資本合計	△69,797	450,014
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△812	116
為替換算調整勘定	△5,946	△19,421
その他の包括利益累計額合計	△6,758	△19,305
新株予約権	3,349	3,649
純資産合計	△73,206	434,358
負債純資産合計	880,473	804,570

## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	1,003,914	1,013,878
売上原価	683,467	661,674
売上総利益	320,446	352,204
販売費及び一般管理費	378,096	319,563
営業利益又は営業損失 (△)	△57,649	32,640
営業外収益		
受取利息	4	2,215
為替差益	9	-
受取損害金	567	-
受取返戻金	-	5,850
雑収入	74	2,189
営業外収益合計	654	10,254
営業外費用		
支払利息	3,547	4,224
為替差損	-	0
新株発行費	-	11,949
支払手数料	-	5,696
雑損失	3,403	3,708
営業外費用合計	6,951	25,579
経常利益又は経常損失 (△)	△63,947	17,315
特別利益		
固定資産売却益	2,386	1,133
債務免除益	-	49,100
子会社株式売却益	-	276,788
特別利益合計	2,386	327,021
特別損失		
本社移転費用	-	8,356
その他	-	7,314
特別損失合計	-	15,670
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失 (△)	△61,560	328,666
法人税、住民税及び事業税	796	3,518
法人税等合計	796	3,518
中間純利益又は中間純損失 (△)	△62,356	325,148
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失 (△)	△62,356	325,148

## 中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益又は中間純損失 (△)	△62,356	325,148
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△464	928
為替換算調整勘定	△5,697	△13,474
その他の包括利益合計	△6,161	△12,546
中間包括利益	△68,517	312,601
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△68,517	312,601
非支配株主に係る中間包括利益	-	-



## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失 (△)	△61,560	328,666
減価償却費	3,875	17,952
有形固定資産売却損益 (△は益)	△2,386	△1,133
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△125	△99
受取利息及び受取配当金	△4	△2,215
支払利息	3,547	4,224
為替差損益 (△は益)	△0	0
子会社株式売却損益 (△は益)	-	△276,788
債務免除益	-	△49,100
新株発行費	-	11,949
売上債権の増減額 (△は増加)	22,539	△114,780
棚卸資産の増減額 (△は増加)	31,348	40
仕入債務の増減額 (△は減少)	7,539	83,663
その他の資産の増減額 (△は増加)	0	△10,589
その他の負債の増減額 (△は減少)	0	△28,763
未払金の増減額 (△は減少)	0	△18,781
その他	32,697	△1,934
小計	37,471	△57,689
利息及び配当金の受取額	4	2,215
利息の支払額	△3,384	△4,199
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,711	△8,046
営業活動によるキャッシュ・フロー	32,378	△67,719
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△388	△14,425
有形固定資産の売却による収入	2,386	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	-	△44,923
その他	△17,472	5,750
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,473	△53,598
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額 (△は減少)	0	-
長期借入れによる収入	36,829	-
長期借入金の返済による支出	△104,237	△2,648
リース債務の返済による支出	△1,100	△1,796
株式の発行による収入	-	187,071
新株予約権の発行による収入	0	300
その他	0	10,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△68,508	192,927
現金及び現金同等物に係る換算差額	356	633
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△51,246	72,241
現金及び現金同等物の期首残高	211,023	214,124
現金及び現金同等物の中間期末残高	159,776	286,366

## (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度まで11期連続して親会社株主に帰属する当期純損失を計上していることから継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。当中間連結会計期間において大幅に改善しているものの、引き続き当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っております。

食品事業は、堅調に黒字化を継続できる構造改革を行いました。化粧品事業は、採算の目途が立たない自社ブランド化粧品について整理を行い、株式会社メディアートの子会社化によって販促体制を整えることができました。その他事業に含まれる青果事業については撤退し、医療福祉関連事業については採算の取れる堅固な体制を当連結会計年度中に整えてまいります。

これらの施策により採算は大幅に改善しております。引き続き確実な状況改善に向けて、当社グループとしては、新代表取締役の下、新たな事業戦略を迅速に推進する事で継続的な利益を計上できる体制を構築してまいります。

また当中間連結会計期間において、2024年6月27日開催の株主総会決議並びに2024年8月29日開催の取締役会決議に基づき第三者割当増資、及び債務免除益の計上等が行われております。

しかし、これらの施策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められません。なお、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間連結財務諸表には反映しておりません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

## I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

## 2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

## II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

## 1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

## 2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は2024年6月27日開催の定時株主総会決議に基づき2024年6月28日付でアクティブマーケット1号投資事業有限責任組合を引受先とした第三者割当増資、並びに2024年8月1日付で欠損填補による資本金、資本準備金、利益準備金の取崩し、及び2024年8月29日開催の取締役会決議に基づき2024年9月13日付で石垣裕義を引受先とした第三者割当増資を行ったことから、当中間連結会計期間末において資本金が224,992千円、資本剰余金が131,209千円、利益剰余金が94,595千円となっております。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## ※1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
現金及び預金勘定	169,776千円	286,366千円
担保提供している定期預金	△10,000	—
現金及び現金同等物	179,776	286,366

## ※2 現金及び現金同等物を対価とする事業の譲渡にかかる資産及び負債の主な内訳

当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

株式会社新日本機能食品の株式の譲渡に伴う資産及び負債並びに事業の譲渡益と事業譲渡による収入は次のとおりであります。

流動資産	293,983千円
固定資産	11,081 "
流動負債	△117,789 "
固定負債	△404,294 "
子会社株式売却益	276,788 "
その他	△39,770 "
株式の売却価額	20,000千円
現金及び現金同等物	△64,923 "
差引：子会社株式売却による支出	△44,923千円

## 3. その他

## 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで11期連続して親会社株主に帰属する当期純損失を計上していることから継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。当中間連結会計期間において大幅に改善しているものの、引き続き当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っております。

食品事業は、堅調に黒字化を継続できる構造改革を行いました。化粧品事業は、採算の目途が立たない自社ブランド化粧品について整理を行い、株式会社メディアートの子会社化によって販促体制を整えることができました。その他事業に含まれる青果事業については撤退し、医療福祉関連事業については採算の取れる堅固な体制を当連結会計年度中に整えてまいります。

これらの施策により採算は大幅に改善しております。引き続き確実な状況改善に向けて、当社グループとしては、新代表取締役の下、新たな事業戦略を迅速に推進する事で継続的な利益を計上できる体制を構築してまいります。

また当中間連結会計期間において、2024年6月27日開催の株主総会決議並びに2024年8月29日開催の取締役会決議に基づき第三者割当増資、及び債務免除益の計上等が行われております。